

横浜市立 富士見台小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①学習カード等によるふり返りを充実させたり、複数の教師で授業に関わることで個の見取りを充実させたりして、基礎基本の力の定着を目指す。②重点研究において「ひびき合う」ことに関わるテーマを設定し、主体的に課題解決する活動を意図的に設定し、自分の言葉で表現できる力をつける。	①のびのびルームや少人数指導など、複数の教師による子ども見取りが充実した。反面、どちらにもかかわらない子どもについては、学年で一層の情報を共有を密にする必要性が見えてきている。②自分の言葉で表現できる子どもが増えている。今後は、子どもが自らの思いを自発的に発信できるように育てていきたい。	B	確かな学力	①複数の教師で授業に関わったり、教材研究を共同で行ったことなど個の見取りを充実させ、基礎基本の定着を目指す。②重点研究において「ひびき合う」ことに関わるテーマを設定し、学習カード等によるふり返りを充実させたり、子どもが自身の思いを主体的に表現できるように努めたりして、自分の言葉で表現する力をつける。	①児童一人ひとりを大切に授業実践のために協同的な教材研究や少人数指導、教科担任制の導入、のびのびルームの活用など基礎基本の定着をすすめた。②重点研究を計画的かつ組織的に進めることにより、児童の課題解決への取組と主体的な表現が実を結びつつある。	B	確かな学力	確かな学力の維持と向上にむけ、基礎基本の力を定着させると共に、教材研究に引き続き協同して取り組み、児童一人ひとりを大切に授業の実践と少人数指導や教科担任制、のびのびルームや国際教室の活用を進めながら、たがいの学び合いをすすめ、思考力、判断力、表現力の育成及び向上、加えて課題解決、主体的な表現の充実をはかる。	確かな学力の定着と学校教育目標実現に向け、児童の課題解決、教職員の授業改善を図るべく授業を伴った研究会を今年度からは国語で進めた。また少人数指導、教科担任制、専科、国際教室、のびのびルームを活用することで、児童の課題解決への取組と主体的な表現の充実をすすめている。	B
豊かな心	①ペア活動を中心に、学級集団の枠を越えた子どもどうしのつながりを構築できるようにする。②学習や行事等、様々な機会をとらえて、保護者や地域の「人」とふれあいを感じられるような活動を展開する。③友達や保護者、地域の方々に自ら挨拶するよさに気付くことができるよう、月別目標を活用したり、委員会活動において取り組んだりする。	①ペアで取り組む活動が多く、親密になれた子どもが多かった。自身のペア以外のつながりも広がっていきたい。②地域の方との触れ合いとともに、「人」を通じた主体的な学習が多く展開できた。③挨拶の大切さなどの子どももわかっているようだが、日常生活で実践し、態度化することについては、もう少し進めたい。	B	豊かな心	①ペア活動を中心に、学級集団の枠を越えた子どもどうしのつながりに関して、集会・遊び・学習成果の発表などを通じて構築できるようにする。②学習や行事等、様々な機会をとらえ、保護者や地域の「人」とふれあいを感じられるような活動を展開する。③友達や保護者、地域の方々に自ら挨拶するよさに気付くことができるよう、まずは職員が進んで挨拶をする。	①学級集団の活動を基本に他学年との交流を積極的かつ定期的に行うことで思いやりを意識した活動が継続している。②学習や行事等を通して、保護者だけではなく、自分たちの暮らす地域を意識した活動が展開でき、日々挨拶も加わり、より良い連携が展開している。	A	豊かな心	学級集団や学年集団の活動を基盤として豊かな心の構築を図ると共に、他学年とのつながりであるペア活動を集会、行事、読み聞かせ等を通して深めていく。また、保護者や地域の方々の協力を仰ぎながら、自分たちの地域を意識した活動を展開していくことで、自他を認め、自己肯定感と有用感を高めていく。	学級経営、学年経営をいねいかつ計画的に行うことで児童自身が見通しを持った活動をしている。そのうえでふれあい運動会・フェスティバルの大きな行事を柱に日常的なペア活動を積み重ねることで、自己肯定感と自己有用感を高めることができ、そこから地域を意識した活動が展開できた。	A
健やかな体	①自ら考えたり工夫したりして運動の課題を解決するような、体育科学習の充実を図る。②休み時間の体力づくり活動を充実させ、一人ひとりの児童が自分のめあてをもって、楽しく意欲的に体力づくりに取り組めるようにする。③体育協会等やボランティアと連携し、運動に親しむ機会を設け、生涯体育へ結びつけられるような取組を行う。	①各学年で学習カードを活用する等、技能だけでなく、思考・判断力、態度を高めるような体育科学習がなされた。②体力づくり活動を通して、一人ひとりが幅広く運動の経験を積むことができた。一方で、自分のめあてをもつことや意欲的な態度には課題が残った。③体育協会と連携し、子どもたちに親しい運動体験を体験させることができた。	B	健やかな体	①運動に親しむ態度、思考・判断力、技能の3つの力をバランスよく伸ばしていけるような体育科学習の充実を図る。②体力づくり活動において、取り上げる運動を精選し、学習カードを活用することで、子どもがめあてをもてるようにする。③体育協会やボランティアと継続的に連携し、運動に親しむ機会を設け、生涯体育へ結びつけられるような取組を行う。	①体育科学習の充実を図るために運動に親しむ態度、思考・判断力、技能のバランスと向上に継続して取り組んでいく。②学習カードの活用により、具体的なめあてを持った活動が実践されつつある。③学校の教育活動以外でも運動に親しむ機会を関係機関と連携・提示し、生涯体育へ結び付けられる環境を整えている。	B	健やかな体	体育科の学習だけでなく、遊びや体力づくりを通して、体を動かすことの楽しさや高揚感を感じる機会をつくることに加え、食育や保健の学習を引き続き大切にすることで、現在だけでなく、将来にわたって健康や運動に興味関心を持って取り組めるような基盤づくりを進める。	体育科の学習や、委員会活動が主体となった遊びや体力づくりの定着に加え、今年度よりコーディネーショントレーニングを取り入れ体を動かすことの楽しさや高揚感を感じる機会が増えた。食育や保健の学習も継続させ、今後も健康や運動に興味関心を持ち、実践できる基盤づくりをすすめる。	B
児童生徒指導	①児童の話や聴く姿勢をもって内面を探る努力をし、いじめ対策委員会や学年研究会等の機会を活用して得た情報を職員間で共有し、適切に指導や支援ができるようにする。②「富士見台ユニバーサルデザイン」をもとに、児童が迷いなく生活のリズムを整えたり、安心して学習に取り組めたりできるような環境づくりに努める。	①職員全体で、児童理解、情報共有・組織的対応、保護者との連携の大切さを研修した。情報を職員全体へ発信することが今後の課題である。②「富士見台ユニバーサルデザイン」をもとに児童指導にあたったが、職員間で確認が十分でない部分があったため、全職員の共通理解を徹底したい。	B	児童生徒指導	①子どもの内面を探るよう努め、児童理解、情報共有・組織的対応、保護者との連携を図る。学年研究会や職員会議等の機会に、得ている情報を共有し、適切に指導や支援ができるようにする。②「富士見台ユニバーサルデザイン」をもとに、子どもが迷いなく生活のリズムを整えたり、安心して学習に取り組めたりできるような環境づくりに努める。	児童一人ひとりが安心して落ち着いた学校生活を送ることができるよう、教職員の児童理解と研修を重ねている。また相談活動の充実を図るために、長期休業明けの相談活動の実施や学校カウンセラー等、関係諸機関との連携を進めている。	B	児童生徒指導	学校生活は社会生活であることを念頭に、児童への理解と共感、支援と指導につとめるために、情報共有や組織的対応、保護者との連携、関係諸機関との連携をすすめていく。また、児童指導や児童理解、支援につながる研修をさまざまな機会を通して行うと共に、相談活動の充実を進めていく。	長期休業明けの相談活動を定着させ、児童一人ひとりの心に寄り添い、安心して落ち着いた学校生活が送れるように努めた。さらに学校カウンセラー等による相談活動により、保護者理解と支援を充実させることができた。また、保護者との連携だけでなく、関係機関とも協力しながら支援と指導を行っている。	A
特別支援教育	①懇談会などで特別支援教育について説明し、個別支援学級への理解を深めるとともに、一般級との連携を促進させる。②一人ひとりの教育的ニーズに応じてよりよい環境を整え、適切な教育を行えるようにする。	①特別支援教育について説明を行い、個別支援学級への理解を深められた。個に応じた交流学習を増やし促進させることができたが、今後は学級や学年との連携、子ども同士の相互理解を更に進めていく必要がある。②個別支援教室の計画、運営を見直しながら整えることで、個のニーズに応じることができ、継続していく。	B	特別支援教育	①懇談会や個人面談などにおいて保護者に特別支援教育について説明し、個別支援学級への理解を深めるとともに、一般級との連携を促進させる。②のびのびルームや少人数指導、国際教室など、一人ひとりの教育的ニーズに応じたよりよい環境を整え、適切な支援や教育を行えるようにする。	児童一人ひとりの特性を大切に環境整備や適切な支援が常に行えるよう、保護者との連携や少人数指導、のびのびルーム、国際教室等を活用している。今後も個別支援級と一般級との連携や交流、教育環境の整備を進めていく。	B	特別支援教育	児童一人ひとりの特性をとらえ、少人数指導や教科担任制、のびのびルーム、国際教室を積極的に活用し、児童一人ひとりに適切な支援や教育がより良い形で継続できるような環境を整え、適切な支援や教育を行えるように努める。	少人数指導、教科担任制、専科、国際教室、のびのびルーム、特別支援教育支援員を積極的に活用し、児童一人ひとりに適切な支援や教育がより良い形で継続できるような環境を整え、適切な支援や教育を行えるように努める。特別支援教育への理解と周知は引き続き進めていく。	B
地域連携	①学校便りやHP、懇談会、学校評価アンケート等を活用し、学校教育目標や育てたい子ども像についての発信を密に行うようにする。②地域の防災訓練に保護者と共に参加するような子どもを育てるために、PTAや地域の方と連携して防災教育に取り組む。	①情報媒体での発信に加え、行事に向けて子どもたちが学ぶ様子を保護者や地域の方に実際に見ていただく場面を設定するなど、育てたい子ども像の共有を図ることができた。②総合防災訓練における、地区班ごとの活動は、防災に結びつく「顔の見える関係づくり」につながった。	A	地域連携	①学校便りやHP、授業参観、懇談会、学校評価アンケート等を活用し、学校教育目標や育てたい子ども像についての発信を密に行うようにする。②教科学習のみならず、学校行事など様々な教育活動への参加を保護者や地域の方に呼びかけ、学校の現状を知っていただくように努める。	さまざまな方法を通して情報発信に努めることで、学校の教育活動にご理解、ご支援、ご協力をいただくとともに、児童・保護者だけでなく、教職員の地域行事への参加を通して地域理解とより良い連携をめざした活動を行った。	A	地域連携	学校教育目標や学校経営中期取組目標の実現のために、学校だけでなく、地域や保護者と連携しながら、より良い教育活動を展開していく。また、学校だけでなくHP、授業参観、懇談会、各種行事を通して情報発信を行い、教育活動への理解と協力、支援をいただく。	地域と学校がお互いの立場や活動を尊重しながら、連携を強め、深めていくことが、日常の活動や各種行事を通して実感できている。また、児童自身も地域を意識した活動を継続的に展開できており、今後も活動や情報発信を通して教育活動の理解と協力、支援をいただけるよう努力を重ねていく。	A
学校運営協議会	①年間4回、協議会を開催し、教育活動の報告を通して様々な視点での意見をいただき、適切な教育が実現できるようにする。②地域の協力体制を得て、より効果的な教育方法について協議する。	①協議会でいただいた意見を「学校運営協議会だより」で保護者や地域に発信することで、適切な教育の実現について様々な方が考える機会をつくることができた。②防災教育や地域学習、地域行事など、学校と地域が協働して子どもを育てる取組が実現できた。	A	学校運営協議会	①年間4回、協議会を開催し、教育活動の報告を通して様々な視点での意見をいただき、適切な教育が実現できるようにする。②地域の協力体制を得て、より効果的な教育方法について協議する。	協議会の開催に伴い、いただいた意見等を「学校運営協議会だより」で保護者や地域に発信することにより、その活動を広く周知することで適切な教育の実現をめざすことができた。また、防災教育や地域学習、地域行事など、学校と地域が協働して子どもを育てる取組も継続できている。	A	学校運営協議会	年間4回の学校運営協議会の開催を通して、教育活動に対するさまざまな視点によるご意見をいただいた。また学校運営協議会だけでなく、さまざまな機会や場面をとらえて、連携を密にし、情報の共有や教育活動に理解をいただき、「地域と共にある学校づくり」を進めていく。	学校運営協議会の開催により、顔の見える関係づくりの強化と学校の教育活動への深い理解と支援をいただいている。特に教育活動、地域共同、生き方の各推進委員会による報告及び協議を通して、地域活動、放課後育成事業等の総合的な展開が学校づくりの大きな力となっている。	A
人材育成・組織運営	①年間7回程度のメンターチーム研修日を確保し、かつ経験10年付近の職員や主幹教諭等の先輩職員もファシリテーターや助言者として参加すること、組織的な人材育成に取り組む。②校務分掌が適切に機能できるように、学校教育目標に照らし合わせて各業務の目標を明確化する。	①定例の研修日のみならず、先輩職員の運営のもと、経験の浅い職員が自主的に自身の課題を出し合い、解決に向けて取り組む姿が見られた。②今年度より新組織となり、自身が所属している校務分掌がどのようになっているか自覚できるようになる。自身の役割をより自覚できるように評価方法を考える必要がある。	A	人材育成・組織運営	①メンターチームを核として、経験の浅い職員が得た学びや明らかになった課題をグループウェア等を活用して発信できるようにし、発信されたことをもとに様々な職員が人材育成にかかわれるようにする。②定例の会議を減らし、担当者が必要に応じて会議や研修を設定できるようにすることで、職員同士の主体的な話し合いを実現させる。	メンターチームの計画的かつ組織的な研修と共に、教職員のコミュニケーションと働きやすさがより良い形で維持できるよう、レイアウト改善を柱に据えた活動を実践することで、より柔軟な人材育成と組織運営を進めている。	A	人材育成・組織運営	働きやすい職場環境づくりを今後も計画的、発展的に進めることで、教職員のコミュニケーションを深め、発展させ、創造的な職場づくりを進めていく。そのうえで組織として、メンターチームの計画的、組織的な研修を実施し、経験年数の浅い教職員の育成を図っていく。	働きやすい職場づくりのために、職員室のレイアウト変更を年度当初に実施、それに合わせて定期的な職員室の席替えを実施している教職員のコミュニケーション向上やメンターチームの活動、教職員のペア活動など、総合的に人材育成を図ることで、円滑な組織運営ができるよう努めている。	A
ブロック内相互評価後の気付き	小学校の陸上朝練習に中学校陸上部の生徒が参加したり、小学校の朝会に中学校生徒会長を招いて「いじめ」についての考えを話してもらったりと、小中が連携する具体的な活動が昨年度よりも増えたことは、互いに良い刺激が得られる機会となった。また、合同研修会を通じて、年々職員のつながりが深まっていることも感じている。授業方法の共有に加えて、学校教育目標を核とした育てたい子ども像についての理解を進めることが肝要である話し合いに及んでいることは、本質的で前向きなことであるので、来年度も継続して取り組んでいきたい。		ブロック内相互評価後の気付き	小中合同の研修会を通して、児童生徒の現状と課題について相互理解を深めると共に、3校の教職員の連携も深まりつつある。さらに運動会における応援指導や当日のボランティアとしてのはたらきなどや音楽発表会での吹奏楽部の演奏、青少年の主張における中学生の観点からの発表など、小生にとってのお手本を行事を通して示すと共に、児童と生徒の継続した交流も深まり、滑らかな小中連携の大きな柱となっている。今後も児童生徒並びに教職員の連携を深め、「9年間で育てる子ども像」をよりよいものにしていきたい。		ブロック内相互評価後の気付き	年間を通して、運動会の準備から当日に至る中学生のボランティア活動、中学生も加わった地域主催の青少年の主張、音楽発表会における吹奏楽部の演奏、地域主催のこども祭りにおけるスタッフとしての小中学生の運営、図工・美術の作品展における幼児小中の作品展示とその鑑賞、中学生の職場体験学習等に加え、日常的な交流を展開してきた。その結果、小中だけでなく、地域の協力も大きな力となり、継続的な交流が生まれ、園児、児童、生徒の滑らかな接続につながり、健全育成に大きく寄与していると言える。		ブロック内相互評価後の気付き	年間を通して、運動会の準備から当日に至る中学生のボランティア活動、中学生も加わった地域主催の青少年の主張、音楽発表会における吹奏楽部の演奏、地域主催のこども祭りにおけるスタッフとしての小中学生の運営、図工・美術の作品展における幼児小中の作品展示とその鑑賞、中学生の職場体験学習等に加え、日常的な交流を展開してきた。その結果、小中だけでなく、地域の協力も大きな力となり、継続的な交流が生まれ、園児、児童、生徒の滑らかな接続につながり、健全育成に大きく寄与していると言える。	
学校関係者評価	現在の社会において大切にしたいことは、顔の見える関係づくりである。人と出会ったときに、相手の良さを感じ取れるような子どもの感性を育みたい。今年度の取組には、人とのかわりが多く込められていて良い。授業においても、子どもたちを人の思いや人の営みに出あわせる工夫がされている。今後も、「かかわり」を大切にしながら取り組んでほしい。課題となっている「体力向上」については、休み時間の子ども様子を見つめてみると良いかもしれない。遊ぶことが習慣化するような取組を考え、実践していくことを期待する。		学校関係者評価	多くの学校関係者の方から「現在の富士見台小学校は、通わせたい学校である」との評価をいただいた。特に地域と学校の連携が大きな柱となっていることに加え、教師と子どもの良い距離感、研究を通じた確かな学力の定着に向けた取組などを評価としてあげていただいた。多忙化を極める学校現場ではあるが、その状況であっても教師として子どもの抱える問題に安易に答えを示さず、子どものそばにいて、共に考えてあげられる度量の広さを示すことの大切さを提示していただいた。		学校関係者評価	学校が現在あるのは、地域の方々の永年の努力と支援があればこそであり、そのことを教職員が意識しながら教育活動を展開することにより、学校関係者からも「富士見台小学校は、子どもを通わせたい学校である」と多くの評価をいただいた。特に前述したように地域と本校の連携が大きな柱となっていることに加え、教師と子どものひびき合う関係、研究・研鑽を通じた確かな学力や体力の定着に向けた取組などを評価としてあげていただいた。		学校関係者評価	学校が現在あるのは、地域の方々の永年の努力と支援があればこそであり、そのことを教職員が意識しながら教育活動を展開することにより、学校関係者からも「富士見台小学校は、子どもを通わせたい学校である」と多くの評価をいただいた。特に前述したように地域と本校の連携が大きな柱となっていることに加え、教師と子どものひびき合う関係、研究・研鑽を通じた確かな学力や体力の定着に向けた取組などを評価としてあげていただいた。	
学校経営中期取組目標振り返り	様々な人とのかかわりを通して、子どもを育てていくことの大切さや有効性に職員が気付き、ある程度の手ごたえを感じた1年となった。学校からの発信方法をより吟味し、保護者や地域の方に理解を求めたり助言をいただいたりするように努めることで、より一体となった学校経営を来年度は目指していく。また、授業改善や体力向上については、来年度以降も本校の課題としてよりよい実践を来年度は実施していく必要がある。学校教育目標の実現に向けて、学校にかかわる人が同じ方向を向いて取り組めるように努めていく。		学校経営中期取組目標振り返り	「たがいにひびき合う学校(学び合う・認め合う・生かす)」を学校教育目標としている本校にとって、学校内で行われる教育活動にとどまらず、自分たちの暮らす地域や社会と広く関わり、連携をとることは大変重要であり、児童だけでなく、教職員にとっても大きな財産となるものである。学校関係者の評価にもあるように、地域と学校とのよりよい連携の継続や、小中連携を通して夢や希望をできるだけ明確にすることにより、今何が必要であるかの具体化が必須である。確かな学力、豊かな心、健やかな体を重点取組分野として引き続き、より良い中期取組目標の実現に努めていく。		学校経営中期取組目標振り返り	来年度も「たがいにひびき合う学校(学び合う・認め合う・生かす)」を学校教育目標とした本校にとって、学校内の教育活動だけでなく、子どもたちの暮らす地域や社会と広く関わり、連携をとることが大変重要であり、児童・教職員共に大きな財産となっている。学校関係者の評価にもあるように、地域と学校とのよりよい連携の継続や、小中連携を通して夢や希望をできるだけ明確にすることにより、今何が必要とされているのかを具体化できる状況にある。確かな学力、豊かな心、健やかな体を重点取組分野として、中期取組目標のより良い実現に引き続き、教職員、そして児童が力を合わせて				